

絶対十字架(ルカ 13:31-35)

サタンは、神様に選ばれて、神様に用いられるために導かれていたイスラエルをダメにしました。サタンの見事な働きです。それと同じように、私たち教会、イエス・キリストを信じる信者も無氣力にさせて、その人生が、また信仰生活が荒れるように働きかけていることを忘れてはいけません。なので、聖書を通して、そのようなサタンの働き、しわざとはどのようなものなのか、ということをしっかりと確認していきたいと思います。今日の聖書の箇所を見ますと、あるパリサイ人たちがイエス様のところに来て、イエス様のことを考えているかのような言い方で「ここを去って違うところに行きなさいよ。このエルサレムから違うところに行かないといけません。ヘロデがあなたを殺そうとしているから」という話をしました。そのときにイエス様が「わたしは今日、明日、またその次もやらないといけないことがあり、ここにずっといられないといけない。預言者たちが言った通りに、神様から遣わされた人がエルサレム以外のところで死ぬということはありえないからなんだ」という話をされました。それから「エルサレム、エルサレム。イスラエルは、神様があれほどイスラエルを構っていたのに、結局イスラエルは信仰に立つことはなかった。だからあなたがたは見捨てられることになり、キリストを本当に告白するそのときまでは神様の祝福の中に立つことなどはありえないよ」ということをおっしゃっています。パリサイ人たちがイエス様のことを案じるかのような言い方で、死を避けて違うところに行きなさいと勧めたときに、イエス様は、それは真逆のことなんだよ、わたしはエルサレムで殺されて死ぬために生きているのだから、エルサレム以外のところで預言者が殺されることなどはありえないとおっしゃりながら、ご自分が死ぬために来られて死ぬことは避けられないものだし、絶対なんだということをおっしゃったわけです。ここで悪魔サタンが見事に甘い言葉でキリスト、キリストと言ひながらも、そのキリストを十字架から引き離そうとしているのです。十字架の絶対的な死から引き離して別のキリストにしようとしているのが悪魔サタンのしわざであり、それが見事にイスラエルにはまって、イスラエルはそのような道をたどり、結局は見捨てられることになりました。今の教会、イエス様を信じますと告白している信者にも同じやり方で攻撃を仕掛けて、信じますと言ひながらも、そのキリストが十字架で絶対に死ななければいけないキリストではなくて、キリストを十字架から引き離そうとしているのです。皆さんにはそのような感覚があまりないかもしれません、今までの教会の歴史、今現在の教会の姿、信者のあり方などを見ますと、見事にそれにはまっているということが確認できるようになると思います。悪魔サタンのしわざ、甘い言葉でもっともなお話を取り上げて、キリストを十字架から引き離そうとしているということを死ぬときまで永遠に忘れないように心に刻んで、その悪魔のしわざを打ち破っていかないといけません。

1. 十字架のないキリストを

悪魔のしわざというものを、まず第一に、キリスト、キリストと言ひながら、メシア、メシアと言ひながら、十字架のないキリストを信じるように仕掛けるものなのです。イスラエルはキリストを待ち望んでいました。メシアを待望していました。今もイスラエルはキリスト、メシアを待ち望んでいます。まだ来ていないと思っているから。十字架で死んだキリストは、彼らが待っていたキリストではありません。十字架のないキリストを待っていたわけです。だから、いまだに彼らが待っているキリスト、メシアは彼らに来ていません。今でもずっと待ち続けています。だから、見捨てられることになります。

1) 政治的革命家

イスラエルは、サタンの見事な攻撃に引っかかって、十字架のないキリスト、つまり政治的に反乱

を引き起こして国を変えることができる政治的な革命家としてのキリストを求めて待っていました。そこに十字架などは存在しません。十字架で悲惨な死を遂げるという人は、彼らが待っていた政治的な革命とはあまりにもかけ離れてるものなので、それはキリストではないよと、そういう信仰を持っていたわけです。

2) ごりやくの神

それから、イスラエルが待っていて、そしてすべての人々が待ってるキリストはどういうキリストなのかというと、ごりやくの神なのです。自分のごりやくのために、それにプラスになる神。結局は神ではなくて自分が作り出したものになるわけなのですが、十字架のないキリストは、結局キリストと言いながらも、自分のごりやくを叶えてくれる、満たしてくれる、そういう神に過ぎないものなのです。偶像と宗教と1ミリも違わない、そのようなキリストをキリストと言いながら信じることになります。イスラエルがそうだったし、今現代の教会も信者もキリストをそのように信じています。自分が信じたいキリストなのです。

3) 民族主義のヒーロー

必ず信じなければいけないキリストではなくて、十字架のないキリスト、場合によっては民衆主義、あるいは民族主義などをしっかりと守り通せるような英雄、ヒーローとしてのキリストを待ち望むことになります。これがイスラエルが待っていたキリストでした。キリストは、イスラエルの民族のために神様が遣わされるヒーローなのです。本当にそうなのでしょうか。もしかして私たちも、キリストをこのような思想に閉じ込めて、あるいは自分の何かの主張に閉じ込めて、それを証明してくれる英雄、ヒーローとして扱っているのではないでしょうか。これが悪魔サタンのしわざであるということを忘れてはいけません。キリストをエルサレムの十字架から、そこから逃げなさいよと勧めるわけです。

4) 同情(福祉)の天使

場合によっては、貧しい人、困ってる人、社会的に阻害されてる人々を助ける、その同情に溢れている福祉のエンジェルとしてキリストを扱うわけです。キリストにそういう部分がないわけではありませんが、困っている人たちを助けるために、彼らに福祉的な助けを与えるために来られるキリストではありません。なのに、キリストをそのように扱うわけです。なぜなのでしょうか。十字架から引き離してしまうと、そういうキリストになってしまします。もしかして、私たちもキリストをそのように求めているのではないでしょうか。皆さんの困っている問題の解決のために、いつもキリスト、キリスト、キリストと求めていることではないでしょうか。もはやそこに十字架は存在しません。十字架が見えないのです。十字架のないキリスト。いくらキリスト、イエス、メシアと言っても、それはサタンのしわざなのです。キリストという言葉が使われてるから、キリストという言葉を唱えているから、キリストではありません。

5) 理念と思想

最終的にはキリスト、あるいは十字架という言葉でさえ、一つの何かの理念みたいに、人生を生きていくために人間が持つべき謙虚な姿勢のようなイメージとして見る。十字架は人間の謙虚さを訴えるためにあるものではありません。なのに十字架を取り上げて、それを何かの理念、理念や思想に作り変えることになるのです。何かのために自分の犠牲を払うという思想。もちろんイエス様が私たちのためにご自分を犠牲にしたことは間違いませんが、それが単なる何かのために犠牲を払うという、そういう理念ではありません。なのに最終的には、いちばん最初は十字架から引き離して、それでも十字架となったときには、その十字架を一つの理念や思想に閉じ込める働きをするものなのです。それがサタンのしわざであるということをぜひ覚えていてください。

2. 真のキリストへの反発

結局、十字架のないキリストをキリストだと求めて信じている場合には、真のキリストが現れたときに、真のキリストの福音が語られたときには、その前では反発することになります。彼らが信じて従っていたキリストとは真逆の話なので。また、真のキリストが語られたときには、真の福音が明らかにされたときには、人間のいちばん嫌な罪の本性を触ることになるのです。あなたがたは絶望的な罪人ですよというメッセージなので、それはもう嫌で嫌でしようがないのです。それを認めたくないから、悪魔の囁きにのって、キリストを政治的な革命家や民族主義のヒーローやごりやくの神扱いして、宗教にして頑張っていたのに、真のキリストが現れました。十字架のキリストが、絶対十字架で死ななければいけないキリストの福音が明らかにおあかしされるときには、その人間の罪の本性に触られることになるので、嫌で嫌でしようがないから、その真のキリストに反発して、そのキリストを殺すことになります。それが悪魔のしわざなのです。

1) イスラエルの歴史

イエス様ご自身も、今日の聖書の箇所でお話されました。イスラエルに対して「エルサレム、エルサレム、わたしがあなたがたをどれほど構っていたのか。キリストの信仰、絶対十字架の信仰に立たせるために、どれほど歴史の中であなたがたに手を伸ばしていたのか。なのに、あなたがたは結局は拒否していたんだよ」というお話をていらっしゃるわけです。反発するわけです。それがイスラエルの歴史でした。

2) 選ばれた民

イスラエルは、ほかの民族と違って、神様に特別に選ばれた民なのです。にもかかわらず、真のキリストに反発することになります。

3) 律法

そのイスラエルだけに、神様は福音が何かを悟ることができるための律法を与えられました。ほかの異邦人たちは、何が悪いかどうかもよくは見分けることができません。その材料がないので。しかし、イスラエルには律法を与えられ、人間がどれほど絶望的で、神のみことばを守れない、神様と正反対の方に走っているものなのに気づいてもらえる材料を許してくださいました。にもかかわらず、イスラエルは神様の方に向かおうとしていません。

4) 餅とむち

それで神様はイスラエルの歴史の中で餅とむちをもってイスラエルを導かれたわけです。紅海が分けられる奇跡を見せて、マナとうずらを通して食べさせ、40年間、服一着、靴一足で十分であるように。イエス様が来られるまで、神様はイスラエルに想像をはるかに超えたさまざまな奇跡をもってイスラエルを構っていらっしゃったわけです。にもかかわらず、彼らはキリストに反発することになります。なぜでしょうか。十字架のないキリストを信じていたので。十字架のないキリストを信じると、いくら奇跡を見て、いくら構っていても、結局は反発することになります。それで神様はまたイスラエルを愛して捕虜にしてしまったり、奴隸にしてしまったり、周りから攻撃を受けるようにしてしまったり、エルサレムが壊れてしまったり、神殿が壊れてしまったり、さまざまなむちを通して目的は一つです。

5) 多くの預言者

十字架のキリストを信じるようにとしたにもかかわらず、彼らはその十字架のキリストに対して拒否し、それを伝えるために神様から使われた預言者をことごとく殺してしまいます。それがキリスト

トと言いながらも、十字架が欠けているキリストの場合に、このような怖い結果に走ることになるということが歴史を通して証明されました。これがイスラエル歴史なのです。なぜそのような悲しい歴史をたどることになったのでしょうか。理由は一つだけです。十字架のないキリストを求めていたので、十字架のないキリストを信じていたので。言葉をえますと、見事に神様が一番最初からおっしゃいました女の子孫が生まれて、蛇の頭を踏み碎く、それでかかとに噛みつかれるとおっしゃいましたその福音の契約を信じることがないままいたので、見事に悪魔サタンにやられていたからなのです。本当に短く縮めて簡単に申し上げると、イスラエルはなぜあのようなわざわいの歴史をたどっていたのかと言いますと、十字架のないキリストを信じていたので、言葉をえますと、創世記3章15節を信じていなかったので、言葉をえますと、悪魔サタンにやられてしまったからなのです。教会に長年通っていながらも、キリスト、キリスト、イエス様、イエス様賛美、祈り、ハレルヤと言いながらも、わざわいが絶えないような、そういうクリスチヤンの場合にはよく考えないといけません。教会に通うから悪魔サタンのしわざが終わるわけではありません。キリスト、キリストと叫ぶから暗闇の力が碎かれるわけではありません。十字架のキリストでないといけません。悪魔がどれほど見事に信者でさえダメにしているのかということをよく吟味しないといけません。

3. 絶対十字架

なので、イエス様が今おっしゃっているのは、今クリスチヤンの私たちがサタンに騙されないで、クリスチヤンに与えられている使命を全うして、勝利の人生を歩んでいくために、第一に大切なメッセージは絶対十字架なのです。

1) キリストなら

イエス様がもしキリストに間違ひなければ。イエス様がキリストでなければ、別にエルサレムから逃げても構いません。自分の身の安全のために。しかし、今パリサイ人が案じるかのような真似をしながら逃げなさいと勧めていらっしゃる相手のイエス様がキリストに間違ひなければ、創世記3章15節の預言の主人公に間違ひなければ、そのイエス様は絶対十字架で死ななければいけません。なぜなのでしょうか。イエス様がキリストに間違ひなければ、絶対十字架で殺されることが決まっているのです。それが神様の方法であり、神様のやり方であり、神様の愛なのです。それを裏返しますと、キリストが約束されてこの地上に来られた理由は一つしかありません。

2) 絶対解決不可能な原罪

私たち人間が絶対解決できない不可能な原罪を抱えている者なので、だからキリストを送られたわけです。キリストは困っている人を助けるために、また植民地にされている民族、国を独立させるためにこの世に来られた方ではありません。皆さんに抱えているさまざまな問題、辛い問題をどうにかするために来られた方ではありません。それは宗教なのです。だから悪魔のしわざに見事に引っかかって、わざわいが止まらないのです。暗闇の力が碎かれないわけです。絶対十字架。私たちには絶対十字架でなければいけない。絶対解決不可能な罪、原罪を抱えているからなのです。言葉をえますと、多くの教会、イスラエルの国は、この原罪をはなから認めていません。これを認めることは人間としての恥なのです。ヒューマニズムで固まってる人間としての恥なのです。何かがあっても、進化論にのつとて人間が頑張れば、右左がぶつかると真ん中に新しい何かが生まれるよと。そこでまた足りないことがあれば、また違う方向からぶつかると新しいものが生まれる。それが進化論なのです。そういう思想に固まっているので、そこであなたがたはいくら右左にぶつかって進化の話をしていても無駄なんだよ。根本的にダメだからという話は死んでも嫌なのです。それを悪魔は見事に利用して、イスラエルはそれに引っかかって十字架のキリストを捨てました。残念なのは、今のキリスト教会と言われてる教会、信者でさえ、見事に同じサタンの罠に引っかかっ

ているのではないかと思われる現状なのです。原罪を認めようとしていません。原罪があるかどうかともわかりません。だから律法に走るしかありません。何かが正しい、正しくない。どちらかが正しいのか。ずっとその喧嘩ばかりなのです。ルールに合っているのか、合っていないのか。良心的なのかどうか。常識的なのかどうか。もちろん参考にしないといけない話でしょうけれども、キリスト教会が、信者が根本的に語り合うような内容ではありません。なぜそういうことが表のテーマになって、メインになってしまふのでしょうか。原罪を実際的には認めていないからです。なぜクリスチヤンは清い人間にならならないいけないよ、未信者よりもっと優れて清くならないといけないよと言うのか。話は全てあってます。なぜそちらの方を強調するのでしょうか。原罪が分かっていないのではないでしようか。私たちは実は神様を離れて、悪魔サタンに支配されて、罪とのろいの運命に引っかかるものになりました。言葉をえますと、私たちは生まれながら、生まれる前からたましいが、靈が死んでいた者なのです。靈が死んだままこの世に生まれました。靈が死んだままこの世を生きていて、靈が死んだまま地獄に行くように定められている者なのです。学校に行っても、政治界に行っても、経済界、教育界に、芸能界に行っても、この話をするとタブーなのです。この話はみな嫌なのです。だから聞くべき人だけは聞くようになるのでしょうかけれども、だからといって、キリスト教会が狭い門を避けてみなに理解してもらおうとして広い門を通るということは言語道断なのです。迫害されても、教会が潰れることがあっても、絶対十字架でないといけません。つまり、人間は絶対解決不可能な絶望的な存在なのです。靈が死んでいるのに、その人が教育によって心優しい人間になって、人の面倒を見て、自分を犠牲にして、自分のすべてを犠牲にして人を助けたからといって、その人が神様に受け入れられること、悪魔の支配から逃れることは1ミリもありません。それを別次元の話なのです。何を求めて、何を基準にして、何をメインにして、皆さん勉強し、また仕事選んだりするのでしょうか。

3) 神様の方法-創世記 3:15、出エジプト 3:18、イザヤ 7:14、ヘブル 10:20

なので、神様は人を愛して、神様の方にしか道はないから、神様にしかできないことなので、神様ご自分で自ら、この絶対解決不可能な靈が死んでしまった地獄の運命に囚われている人々を助けるために、罪のないご自分の御子キリストを十字架に引き渡されることにしました。私たちの身代わりとして。だから、人間に必要なこと、私たちの問題の解決というものは、いちばん最初からおっしゃいましたように、蛇の頭を踏み碎く、悪魔サタンのしわざを打ち壊すことのほかにありません。それが求められるわけです。誰にでしょうか。刑務所にいる犯罪者ではなくて、私たちなのです。自分が悪魔の頭が踏み碎かれることでなければ希望のない人間だと1度も考えたことのないクリスチヤンが99パーセントでしょう。だから十字架のないキリストと仲良くなっているのです。言葉をえますと、暗闇の力は生き生きと碎かれることなく生き生きと働いている、そういう人生をずっと歩むわけです。となると、イスラエルと同じようにキリスト教会、聖書でも理論ばかりなのです。ほかの論理、いろいろな思想や教育の内容等々についつい負けてしまうのです。心理学がどうのこうの、科学がどうのこうの、経済学がどうのこうのとかは、靈が生かされてからの話なのです。靈が死んだままでは、結局、靈が死んだがゆえに生まれた理論ではないでしょうか。神様の方法は、そのキリストが私たちの身代わりとなつて犠牲になることで、罪とのろいの運命が全部碎かれること。それが神様のやり方であり、方法なのです。そのことによって、処女が身ごもって子供を産むよ。その名をインマヌエルと言いなさい。神様と出会う道となること。それ以外に私たちの問題の解決の方法はありません。イエス様は、この神様のやり方を全うするために遣わされたキリストなのです。だから、キリストが間違いなければ、ヘブル10:20で言われるように「イエスはご自分の肉体という垂れ幕を通して、私たちのために、この新しい生ける道を開いてくださいました」。肉体の垂れ幕というのは、殺されるということなのです。キリストがご自分の命を犠牲にして、刺されて殺されるということによって、キリストとしての働きを全うすることができると聖書は宣言しています。

4) 唯一の道-ヨハネ 14:6、使徒 4:12

なので、絶対十字架。これが唯一の救いの道です。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれも父のみもとに行くことはできません」。ペテロは言いました。世界中で、この御名の他に私たち人間が救われるべき名として、どのような名も与えられていません。絶対十字架なのです。キリストに間違いなければ、キリストは十字架で死ななければいけません。なぜなのでしょうか。私たちはそれ以外には1ミリも希望のない罪人なのです。それ以外にいくら優しい人が現れても、いくらすごい科学的な進歩があっても、それは私たちにとって1ミリも希望にならないものなのです。それを認めるかどうかによって、クリスチャンなのかどうかに分かれるわけです。宗教なのか、キリスト教なのか、福音なのかに分かれてしまうようになります。これからは時代とともにそのような喧嘩、戦いがますます激しくなっていくでしょう。同じキリスト教会の中で、もうすでに始まっていますが、私たちはもうすでにマイノリティになっています。この話ばっかりしているから。もう少し違う話をして、みなに共感できるような話をしようじゃないか。それで異端と言われるのです。それは覚悟の上なので、むしろイエス様はそういうときに喜びなさいとおっしゃったので。この絶対十字架、唯一の道、十字架は唯一のキリストが通らないといけない道でした。

5) ヨハネ 19:30

その唯一の道、絶対十字架を通して私たちの問題をすべて終わらせるようになります。それで十字架の上ですべて完了したと宣言されました。これが絶対十字架なのです。なぜ絶対十字架でしょうか。絶対解決できない問題を抱えていて、その十字架を通してすべてがいっぺんに全部終わるから、だから絶対十字架なのです。十字架を通らないキリストはキリストではありません。いくらキリスト、イエス、聖書、お祈り、キリスト教、どういう単語、言葉を使っていても、それは神様とは全く関係ない、むしろ、今日確認しましたように、光の天使のように現れて、目に見えない悪魔サタンがキリスト教会、信者をダメにするために使っている悪魔のしわざであるということを忘れてはいけません。ぜひ、こんがらがることがないようにしていただきましょう。

なので、今日メッセージを聞いている皆さんには、画面越しで聞いてる方でも同じです。聖霊が2倍3倍働かないと、画面越しの場合は何か伝わることが半減するような感じがするときも結構あるので、祈りつつ、神様のメッセージに耳を傾けて、本当に日曜日の講壇のメッセージにすべてをかけて集中すれば、さんは必ず変わります。サタンはそれができないように邪魔するわけです。今日の絶対十字架のメッセージが間違いなければ、私たちはこのキリストの十字架が絶対に必要な理由を、改めて自分の心の中から認めて告白しないといけません。私はキリストの十字架が絶対必要なのです。私は十字架でなければいけない、絶対解決不可能な原罪を持ってる者なのです。私は生まれながら神を知らないまま、自分も気づいていなかったでしょうけれども、悪魔の支配のもとで、神の怒りを受けるしかない子として生まれて、今まで騙されてきました。だから自分の意志というものがすべて神様とは反対の方向に行くように仕向けられることになっていました。悪魔サタンが作り上げた世の流れというものに見事にはまって、自分、お金、成功、宗教、偶像、思想、行いというものに見事にはまって人生を歩いてきました。認めないとひけません。キリストの十字架でなければ、私には希望などありません。いくら旦那さんが優しくても、奥さんが優しくても、子どもが言うことを聞いて良い子、良い子に育ったとしても、それは私の希望とは1ミリも関係ありません。私は絶望的な罪人です。ほかの誰かと比べたりする余裕もない、また誰かのせいにする余裕などない、罪人ですと認めて告白しないといけません。それで、絶対十字架を告白して、皆さんができる過去を振り返って編集しないといけないことがあります。福音による人生の編集とはそういうものなのです。自分が今まで問題だと思っていたこと、不幸だと思っていたことは、実は騙され

ていたことなんだ。

それは問題でも不幸でもなかつたんだ。自分が神様を知らないことは不幸であり、問題であり、悪魔サタンに支配されてたそれが問題であり、親に捨てられた、いじめられた、お金がなかつた、病気、障害を抱えていた、そういうことは問題ではありません。それが問題だと思っていると、十字架のないキリストになるのです。エレミヤのような、エリヤのような、バプテスマのヨハネのような、そういうキリストになるしかありません。キリストという言葉の問題ではありません。それを大胆に宣言して、今までそれが心の傷やトラウマにもなつていたかもしれません、一切縛られることなく、そこでキリストを告白するように。問題ではありません。いじめられたことが問題でしょうか。皆さんが犯罪を犯していたことが問題でしょうか。それより 10 億倍以上ひどい人間なのです。私たちは。自分が盗みを働いて麻薬に手を出したということで、自分の本当の問題を避けようとしてはいけません。悪魔のしわざなのです。私は人を殺した本当に許せない悪い人間ですよと囚われて、悪魔の子どもであることからどこかに逃げようとしてはいけません。人殺しより 10 億倍もひどい、可能性のない人間なのです。だれがでしょうか。私たちが。だから、人殺しでなくても、根本を見ると私と一緒になので、誰も罪に定めることはできません。私も同じ人間だから。これが問題です。それがイエス様が、キリストが十字架で死ななければいけない理由なのです。絶対十字架でなければいけない理由を見つけないといけません。それを素直に認めないとといけません。そのときに初めて暗闇の力が碎かれることを経験するようになります。そのときまでは、いくら教会に真面目に一生懸命通って、頑張って献身したとしても、暗闇とはいつも仲良くするしかありません。暗闇の力は、私たちの真面目な行い、私たちの優しい気持ちなどで怖くなつて逃げるようなものではありません。絶対十字架の告白の上で、まだまだその人の行いや性格などはでたらめかもしれませんけれども、暗闇は碎かれていくようになります。私たちの第一の目標は暗闇が碎かれていかないといけません。どんな過去があつたでしょうか。未だに後ろめたさがあつたり、心に引っかかるものなどがあるのでしょうか。恨みつらみ、そういうものが心に残っているのでしょうか。騙されていることなのです。それは問題ではありません。そのことのためにイエス・キリストが十字架で死なれたわけではありません。私たちの信仰から、キリストと告白するその信仰から、キリストを十字架から引き離そうとするのです。どうすればいいでしょうか。皆さんが今まで問題だと思っていたそれを、ずっと問題だと思わせれば、キリストは十字架から引き離せるのです。この暗闇の力が碎かれたときに、そのキリストにあって私は全く新しくなつたと告白することができるし、そのときに迷わず大胆に、御座のやぐらが私のものなので、御座のやぐらが自分の中に建つことを信じて祈ることになります。ローマ 5：1-2 がそういう内容です。「こうして、私たちは信仰によって義と認められたので、私たちの主イエス・キリストによって、神との平和を持っています」。どんな過去があつうが、今現在どんなにみじめな人間であつうが、何かがまだまだ直っていない状態であつうが、義と認められて、新しくなつたという確信を持って「このキリストによって私たちは、信仰によって、今立っているこの恵みに導き入れられました。そして、神の栄光にあづかる望みを喜んでいます」。今の私たちの言葉で言うと、神の御座のやぐらが私たちの内側に建つて、内側に神の国が成し遂げられることがもう決まつてゐるのです。そういう資格が私たちには許されています。だから、それを求めます。性格を変えようと、良い人間になろうと頑張らないで、神のやぐらが建ちますとそれは結果としてついてくるものなのです。何を祈るのでしょうか。祈りの課題を全部修正しないといけません。神様、私はこんなに性格悪いものなので、良い性格になるように…、立派な祈りのように思われるでしょう。なれません。なれなくても結構です。キリストに感謝し、御座のやぐらが建つように。そうすると、その悪い性格、良い性格に変わります。順番がみな間違つてゐるのです。なぜでしょうか。絶対十字架を認めないから。全部が律法的、人間的、宗教的、肉体的になるしかありません。今日、このメッセージを期にして、ぜひ皆さん、絶対十字架の信仰に立つて、皆さんの中側に神のやぐらが豊かに建つ、その答えの主人公になることを、主の御名によって祝福いたします。

(祈り)

恵み深い父なる神様。ありがとうございます。今日も兄弟姉妹とともに礼拝を捧げ、聖書を通して神様のメッセージをいただきました。どうかひとりひとりがキリストを絶対十字架として告白して、信じて、すべてから自由になり、キリスト Only になって、神の栄光を大いに喜んで望む祈りの信者になるように祝福してください。絶対十字架以外に引っかかるすべてを切り離すことができる信仰の勇気をえてください。イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン。